

復興への思い 書で表現

手書き文字ばんざい! 東北大会

「文字・活字文化振興法」が成立(平成17年)し、10月27日が「文字・活字文化の日」に制定されたのを受けて、公益社団法人日本書芸院と読売新聞社は平成17年から毎年秋に、大阪市で「手書き文字ばんざい!」大会を開いています。平成24年は、東日本大震災に見舞われた被災地の人たちを励まそうと、東北・岩手県盛岡市で初めて「手書き文字ばんざい! 東北大会」を開催しました。また、大阪市でも「第8回 手書き文字ばんざい!」を催しました。両大会には合わせて約600人の親子らが参加、それぞれの思いや心の交流を込めた言葉を書いて、勇気と希望を発信しました。

大阪と被災地を結ぶ

最初に、杭迫柏樹・日本書芸院理事長が、「手書き文字」というものは、いわば魂が動いていると私どもは信じています。私どもは書道を通じて、どうしたら被災地の皆様を応援できるのか、私どものそういう思いを、どうし

たら皆様にお伝えできるのか、励ましできるのか。いろいろと談じてまいりました。その結果、今日のこういう催しになったわけであります。今日は、自分の思いのだけを、筆と墨によって思いっきり表現していただきたいと思

います」とあいさつしました。続いて、山崎俊滋・読売新聞東京本社読売書法会事務局長が、「新聞社では多くの文字が準備されていま

す。その中で目を引くのは、手で書いた文字。これがやはり、一番目にいてまいります。年賀状でも、パソコンで書いた文字は普通に読むかも知れませんが、文字そのもの

応援にこたえる 力強い言葉色紙に

この後、色紙への揮毫を行いました。参加者は第7回の「手書き文字ばんざい!」大阪大会で書かれた応援メッセージの作品を見学して、心温まる数々の言葉に励ました。この応援にこたえ



杭迫柏樹・本院理事長による「絆」(右)と
高木厚人・同副理事長の「ありがとう…」(左)

【主催】公益社団法人日本書芸院、読売新聞社
【後援】文部科学省、岩手県、盛岡市、陸前高田市、大船渡市、釜石市、久慈市、宮古市、山田町、岩泉町、洋野町、大槌町、田野畠村、普代村、野田村、滝沢村、公益財団法人岩手県文化振興事業団、

社団法人岩手県芸術文化協会、岩手書道協会、岩手日報社、盛岡タイムス社、IBC岩手放送、テレビ岩手、めんこいテレビ、岩手朝日テレビ
【協賛】あかしや、吳竹、サクラクレパス、ゼブラ、トンボ鉛筆、パイロットコーポレーション、ぺんてる、墨運堂(50音順)



パネルに思い思いの言葉を書き込む

参加者にプレゼントされた
本院役員の作品入りの行灯

「感謝」などの気持ちのこもつた素敵な言葉を色紙やパネルに書きました。

続いて、日本書芸院の役員による大作揮毫が行われ、杭迫柏樹理事長が「糸」、高木厚人副理事長が「ありがとう」育てくれた人達に「」

と縦1・2尺、横0・6尺の紙に書き上げると、参加者が大きな拍手が起りました。2人の作品は地元の公共施設に寄贈されます。

最後に、県立盛岡第二高校書道部、応援団のみなさんがパフォーマンスを披露しました。応援団は復興を祈念したエールを送りました。

書道部員は「大きな震災で

たくさんの命を失い、言葉では言い表せない被害を受けました。それでも、復興に向けて協力し、支え合う地域の人々の姿に心を打たれます。書道部は作品を通じて

書道部の大志田裕香さん(18)は、「大勢の人の中で緊張しながら、被災地から元気や勇気を発信できる機会なので精一杯頑張った」と話していました。

大会後、参加者全員に書道用品セットと、日本書芸院役員の作品入りの行灯がプレゼントされ

心温まる言葉の交流

皆様に元気や感動を与えて貰えればと思ってます」とあります。エグザイルの復興支援曲に合わせて、踊りながら

メッセージを揮毫しました。このパフォーマンスに、子どもたちも楽しそうに手拍子を送っていました。

この日の作品は10月28日から11月4日まで、「アイーナー」に展示され、多くの県民に希望のメッセージを届けました。

ました。

この日の作品は10月28日から11月4日まで、「アイーナー」に展示され、多くの県民に希望のメッセージを届けました。

※参加者の声は平成24年10月28日当日の取材より。
年齢、学年は取材当時。



参加者の声

感謝の気持ち込めて

岩手県釜石市・小学4年 工藤百華さん(10)
「大勢の前で書くのは緊張しました。友達と考
えて色紙に『心はひとつ』と書きました」

同県大船渡市・小学5年 佐藤小雪さん(10)
「とても楽しかった。『感謝ありがとう』と半
紙いっぱいに気持ちを込めて書きました」

同県田町・小学5年 田中陽葵さん(11)
「津波に負けずに頑張れ」と書かれた応援
メッセージに励まされた。頑張って夢に向か
います」

同県龍沢村・公務員 山内和恵さん「書を通
じて気持ちが一つになった気がしました」

心のまま 筆に親しむ

第8回 手書き文字ばんざい！

「第8回手書き文字ばんざい！」は、10月21日、大阪市中央区のOMMビル展示ホールで開催され、約350人の親子らが参加しました。第7回に続き、今回も「東日本大震災復興」への思いを込め、参加者らはそれぞれの文字を書き上げました。



書く楽しみ 肌で感じる

西正成・日本書芸院評議員が「心競わす」と揮毫しました。中国・唐の詩人、杜甫の漢詩から「心不競」の3文字を選んで書いた作品で、いじめや虐待が社会問題化される世相の中、「技は競つても、心は穏やかで、優しさや思いやりを大切にしてほしい」と大会に対する熱い思いを語りました。続いて、参加者が様々な

この後、読売書法展でも37歳で読売大賞を受賞し、平成24年の日本書芸院展でも星作家として出品した尾崎正成・日本書芸院評議員が「心競わす」と揮毫しました。中国・唐の詩人、杜甫の漢詩から「心不競」の3文字を選んで書いた作品で、いじめや虐待が社会問題化される世相の中、「技は競つても、心は穏やかで、優しさや思いやりを大切にしてほしい」という願いを込めました。

この後、読売書法展でも37歳で読売大賞を受賞し、平成24年の日本書芸院展でも星作家として出品した尾崎正成・日本書芸院評議員が「心競わす」と揮毫しました。中国・唐の詩人、杜甫の漢詩から「心不競」の3文字を選んで書いた作品で、いじめや虐待が社会問題化される世相の中、「技は競つても、心は穏やかで、優しさや思いやりを大切にしてほしい」と大会に対する熱い思いを語りました。続いて、参加者が様々な



◆ 尾西正成・本院評議員の揮毫(右)と完成した「心競わす」(左)



学生代表による作品揮毫

【主催】公益社団法人日本書芸院、読売新聞社
【後援】文部科学省、大阪府教育委員会、大阪市教育委員会、NHK大阪放送局、読売テレビ
【協賛】あかしや、吳竹、サクラクレパス、ゼブラ、トンボ鉛筆、パイロットコーポレーション、ぺんてる、墨運堂(50音順)



参加者の声

※「参加者の声」は平成24年10月27日付読売新聞朝刊から。年齢、学年は掲載当時。

夢は習字の先生／向上心 改めてわく

堺市西区・小学4年 竹田花さん(10)「字を書くことが大好き。いつもの教室とは違って色々な字が書いて楽しい。将来は習字の先生になりたい」

奈良県生駒市・小学5年 渡辺未来さん(10)「5年連続来ていて。今回は、みんなが仲良くなればいいなと思って、絆という字を選んだ」

大阪府大阪狭山市・小学6年 加藤すみれさん(12)「たくさん人の字を見る事ができて勉強になる。努力して自分もいつも大勢の人の前で作品を書きたい」

大阪府貝塚市・高校2年 田仲未来さん(17)「友人に誘われて来て、本格的な書道に初めて挑戦した。メールとは違い、字に自分の全てを出す、というのは緊張する。普段の生活と

違う空間を体験できて良かった」

兵庫県姫路市・大学3年 一井晶恵さん(21)「先生の温かい指導や親の理解もあって書道ができることに本当に感謝している。これからも向上を続けていきたい」

兵庫県姫路市・書家 中村文さん(27)「普段は書道を教える立場だが、こうして改めて臨書に挑むのは新鮮。大勢で集まって書くと、リラックスできて、ひと味違った書道を楽しめた」

大阪市阿倍野区・主婦 今井智子さん(39)「子どもの頃に習った習字を思い出しながら書き、童心に帰った。長女が筆を持つ姿を初めて自分の当たりにした。他の方の作品も見られる貴重な機会になった」

表9人と、高校・大学生の代表4人の計13人が特設ステージに上がり、一字一字丁寧に書き上げると、会場は盛大な拍手で包まれました。最後に日本書芸院の高木厚人副理事長があいさつに立ち、「実際に手書き文字の作品を見ると、文字そのもの、書かれた力」というのがビン彬と書いてくる。意味を伝える以上の力が、やはり手

書き文字にあることを今日改めて実感しました。今日のイベントの良さを皆さんに伝え、来年も是非ご参加下さい。

そして、いろいろな機会で、手書き文字が素晴らしいといふことを一緒に伝えていければ、最後に日本書芸院の高木厚人副理事長があいさつに立ち、「実際に手書き文字の作品を見ると、文字そのもの、書かれた力」というのがビン彬と書いてくる。意味を伝える以上の力が、やはり手

書き文字にあることを今日改めて実感しました。今日のイベントの良さを皆さんに伝え、来年も是非ご参加下さい。

そして、いろいろな機会で、手書き文字が素晴らしいといふことを一緒に伝えていければ、最後に日本書芸院の高木厚人副理事長があいさつに立ち、「実際に手書き文字の作品を見ると、文字そのもの、書かれた力」というのがビン彬と書いてくる。意味を伝える以上の力が、やはり手

書き文字にあることを今日改めて実感しました。今日のイベントの良さを皆さんに伝え、来年も是非ご参加下さい。

そして、いろいろな機会で、手書き文字が素晴らしいといふことを一緒に伝えていければ、最後に日本書芸院の高木厚人副理事長があいさつに立ち、「実際に手書き文字の作品を見ると、文字そのもの、書かれた力」というのがビン彬と書いてくる。意味を伝える以上の力が、やはり手

書き文字にあることを今日改めて実感しました。今日のイベントの良さを皆さんに伝え、来年も是非ご参加下さい。

そして、いろいろな機会で、手書き文字が素晴らしいといふことを一緒に伝えていければ、最後に日本書芸院の高木厚人副理事長があいさつに立ち、「実際に手書き文字の作品を見ると、文字そのもの、書かれた力」というのがビン彬と書いてくる。意味を伝える上の

力が、やはり手書き文字にあることを今日改めて実感しました。今日のイベントの良さを皆さんに伝え、来年も是非ご参加下さい。

そして、いろいろな機会で、手書き文字が素晴らしいといふことを一緒に伝えていければ、最後に日本書芸院の高木厚人副理事長があいさつに立ち、「実際に手書き文字の作品を見ると、文字そのもの、書かれた力」というのがビン彬と書いてくる。意味を伝える上の

力が、やはり手書き文字にあることを今日改めて実感しました。今日のイベントの良さを皆さんに伝え、来年も是非ご参加下さい。

そして、いろいろな機会で、手書き文字が素晴らしいといふことを一緒に伝えていければ、最後に日本書芸院の高木厚人副理事長があいさつに立ち、「実際に手書き文字の作品を見ると、文字そのもの、書かれた力」というのがビン彬と書いてくる。意味を伝える上の

力が、やはり手書き文字にあることを今日改めて実感しました。今日のイベントの良さを皆さんに伝え、来年も是非ご参加下さい。

そして、いろいろな機会で、手書き文字が素晴らしいといふことを一緒に伝えていければ、最後に日本書芸院の高木厚人副理事長があいさつに立ち、「実際に手書き文字の作品を見ると、文字そのもの、書かれた力」というのがビン彬と書いてくる。意味を伝える上の

力が、やはり手書き文字にあることを今日改めて実感しました。今日のイベントの良さを皆さんに伝え、来年も是非ご参加下さい。

そして、いろいろな機会で、手書き文字が素晴らしいといふことを一緒に伝えていけば

好きな文字のびのびと

「東北」からのメッセージに感動

災者のメッセージでとても心のこもった言葉があった「力

強い作品に心が明るくなりま

した」「頑張ってるんだな

と思い勇気づけられました」

などと文字を通じた魂のふれあいに胸を打たれていました。

ばと思います」と大会を締めくくりました。

この日の参加者には、和紙製小皿がプレゼントされ、これに、思い思いの言葉を書き入れて記念に持ち帰りました。

した。

</

美氏



人引きつける手書き文字

「書は人なり」とも言われる文字文化。書き手の人柄や知性、心の機微を伝える手書き文字は、パソコン全盛の現代でも、人を引きつける。学者や文化人らに、その魅力を語ってもらいました。

毎年12月、その年の世相を最もよく表す一字として選ばれた「今年の漢字」を揮毫させていただいています。例えば平成23年は「絆」でしたが、この字は元々牛馬をつなぐヒモ、自由を束縛する意味です。同時に「絆」には、結びつけるという意味があります。日本がかつて経験したことがない大災害が突然して、みんなが一つにならなければ、お互いが少しずつ我慢して手をつないでいこうという気持ちで国民が自覚めたのでしょうか。表意文字の漢字

は一字にいろんな意味が込められる。漢字文化の国ならではの表現ですね。

「書」とは基本的に「習う」ものです。そのためにはお手本を見て「臨書」をします。「形臨」は形を、意臨は気持ちを習うのですが、やがて「背臨」といつて、形も気持ちも卒業していく、形も気持ちも卒業することに個性が出てきます。しかし「私」には「私」以上のものは出せない。だから常に勉強して「私」を磨くことが大切になってきます。

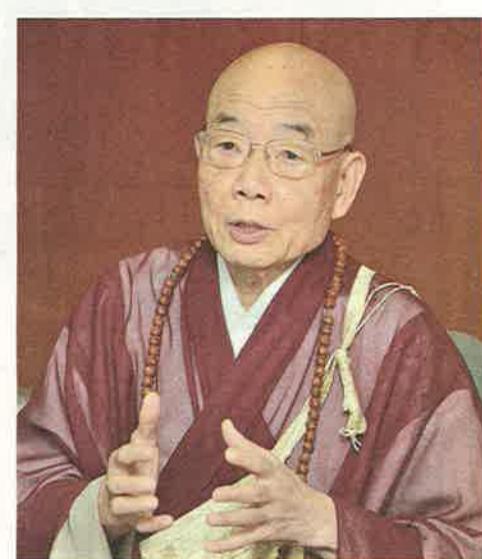
すると押し入れから包装紙などを取り出してきて、その裏に手習いをされるんですね。百歳を過ぎた老師がですよ。自分に厳しい方でしたね。稽古するとは、勉強

するとは、こういうことなんだと、それは今も私の心の中の宝物になっています。

私は自身が書を習い始めた頃、何遍書いても書の先生はダメだという。なぜ、どうしてと悩んでいたら、師が字を書かれるのをお手伝いしました。

「今年の漢字」を揮毫

森 清範 清水寺貫主



「書は人なり」と言いますが、漢代の揚雄の著『法言』に「言は心声なり、書は心画なり」という言葉があります。心が形に表れたものが書。字はその人の心が書かせる。だから普段から心の勉強をすることが書の勉強になる。

私の師匠の大西良慶和上は百九歳で亡くなられたんですが、小僧の頃、よく師が字を書かれ

るのをお手伝いしました。唐墨と和墨を3対7の割合で、寒の時期に汲み置いた「音羽の水」でさり込む。冬は一時間ほどすらないと墨がよくおりない。されたと思って硯を差し出すと、師はご自身でもう一時間、ゆっくりとすり込まれる。きっと急いでしまったので粒子が粗いんでしょうね。その間にこちらは紙などを用意する。やがて「これでええわ」とおっしゃって、それでもまだお茶などを飲みながら20分ほど置かれる。墨を寝かせ、それから一気呵成に書かれ

るんです。

終って、筆を洗う前に少し水をかけて筆で硯を洗うと、薄い墨汁ができます。

声楽家 鮫島 有美子 氏

三十数年間ドイツ、オーストリアで暮らし、日本と往来し、仕事をしてい

て思っているのは、筆でものを書く、筆順も文字もいい加

書かれた文字を愛する、と

いうのは日本独特の美意識ですね。

子供の頃、冬休みの宿題には必ずといっていいほど書き初めがありました。心新たに墨をすり、白い紙に筆を下ろす時のドキドキするような緊張感。母が書を習っていたせいもあるて、実家には先生の素晴らしい書が飾られています。

ヨーロッパでは空間をすべて装飾で埋め尽くすのが豪華でいいとされます。初めてヨーロッパへ行った宮殿などを見た時、何か圧倒されるような感動を感じましたが、そうではない

日本語ってとても視覚的

な言語だと思うんです。

日本語は、頭の中で考えながら書き

たりしてきました。今は

簡単にコピーできますか

うと、「何を言っているんや、

一字書いたら一字入るんや」と。一字勉強したら一

字自分のものになる、とい

う意味です。

今でも書はほとんど毎日

書いています。ペンは硬い

から疲れます。筆の方が力

が要らない。たっぷりと墨

を含ませて、筆が紙に当た

る時の感触が何とも言えな

いですね。

日本の字は筆で書くよう

にできている。電子文字が

出来て、社会のテンポと合

つて普及してきたのです。

子供の頃、冬休みの宿題には必ずといっていいほど

書き初めがありました。心

新たに墨をすり、白い紙に

筆を下ろす時のドキドキする

感覚を自分で見てわかったよ

うな気になっていても、い

ざ書いてみるとあいまいな

曲を復習する時など歌詞を思

い出しながら手で書いてい

くとよく覚えられました。

楽譜を目で見てわかったよ

うな気になっていても、い

ざ書いてみるとあいまいな

歌い手になつてからも、

覚えられませんよね。

歌い手になつてからも、

人引きつける手書き文字

喜劇役者

藤山直美 氏



が好きで、高校の書道の時に勝手に「勘亭流」を稽古していく、先生に「お前一体何書いてんねん」と怒られました。

うちは常に引き出しに墨と硯がある家でした。父親（藤山寛美）は男のくせにしゃべりで、手が動き出す瞬間というのがあるんですね。脳から一直線に手につながって、手が脳と直結して勝手に動いてくれる。そこに機械が介在するというのがどうも信じられないですね。

パソコンが次の文字を呼び出してくれるという方もおられます。私はその感覚が分からぬ。もちろん漢字の間違いとかはあります、編集者

が好きなんですよ。山田詠美さんや昌さんや浅田次郎さんも手書きですね。

小説家なら分かると思うんですけど、手が動き出すのがどうも信じられないのが、本当にいるんです。脳から一回転で手につながって、手が脳と直結して勝手に動いてくれる。そこには、本当に気遣ってくれて、「あはるんやなあ」と思える。だから私もこの年になつて、できるだけ書くようになりました。贈り物などする時でも、努めてカードを書いて添えています。

大事な文面 必ず自筆で

母親も80歳を過ぎてます
から、筆で書くことが習慣になつていて

奈良大学教授 上野誠 氏



書くのはものすごく速いですよ。手が勝手に動いていく時つて1時間で8枚、9枚。だんだん文字が流れようになつていくんですね。多分、パソコンではこの速さで書けないでしょう。もちろん漢字の間違いとかはありますが、編集者

パソコンが次に文字を呼び出してくれるという方もおられます。私はその感覚が分からぬ。もちろん、そういう人がいてもいいし、むしろそちらの方が

いい。パソコンが次に文字を呼び出してくれるという方もおられます。私はその感覚が分からぬ。もちろん、そういう人がいてもいいし、むしろそちらの方が

作家・エッセイスト 林真理子 氏



書くのはものすごく速いですよ。手が勝手に動いていく時つて1時間で8枚、9枚。だんだん文字が流れようになつていくんですね。多分、パソコンではこの速さで書けないでしょう。もちろん漢字の間違いとかはありますが、編集者

手紙は万年筆で書きますよ。信じられないかもしませんが、私はよく筆まめなんです。メールは親しい友人との連絡だけで、有名な老舗文具店のはがきなどを買い置きしていく、すぐ

すごい負担がかかるんですね。でも山本淳子先生（京都市立大教授）に教えていたたぐうちになるほどと思つたのですが、当時は手紙が恋の第一歩だったんですね。もちろん漢字の間違いとかはあります、編集者

まめに札状 心込めて

高校時代、歴史学者になろうと思ったこともあったが、途中で「万葉集」の研究にくら替えました。歌の研究も、歴史資料の研究も、ともに人生が残した記録の研究という点で同じです。資料の性質が違います。萬葉集の方に来てよかつたと思つています。

万葉集は7、8世紀を生きた東アジアの人間の心のありようを記しています。漢字を用いて歌を記し、中國の制度を学んで国家を形成した時代に成立した。だから、日本独自という側面と、東アジアに共通する文

万葉の歌から 古人の思い知る

時間の余裕が出来たら書を習いたいですね。よく舞台でも手紙をしたためるシ

況を、人の思いを、はせることができます。それで自然に歌から物語が生まれる。そんなこともあって私自身、「オペラ遺唐使」を書いたり、平群広成（唐から

日本になれない時代です。それを忘れてしまうと、イヤーニー』を書いたらする

化の上に成り立つていて、いつの側面を持つていて、万葉集に出てくる約1200の地名のうち、大和の地名は約300もあります。都がある地域は文字の普及率が高かつたからでしょう。それが、手書きだと、鉛筆、ワードで書いた文字は違います。

それと、パソコン、ワードの文字と、鉛筆、ペンの文字によつて身に着けていくと、落ち着いて書いたか、さらには丁寧に書こうとしたか、そうでないのか、織り込まれる情報量がワープロ

の文字よりはるかに多い。筆圧の違いでも、人にもの強弱が分かる。

上野さんの手書き文字

上野さんの手書き文字

文化かも知れませんが、どの国でも大切な手紙は手書きではないですか。タイ文字でも署名は手書きだし、今日でもペン習字や書道の教室は隆盛だと聞きます。いくらパソコンが発達しても手書き文字はなくならないでしょ。

岩手県石巻市の中勝町は硯の産地で有名だったんですね。でも津波で全部流されてしまった。仙台で偶然見つけってきたのを今、手元に置いているんですが、いつの日か硯で墨をすつて、短歌や俳句を捨てる。忙しさは増すばかりなんです。そんな日があればいいで顔も見たことない相手を好きになれるんだろうと最初は不思議だったんですね。でも山本淳子先生（京都市立大教授）に教えていたたぐうちになるほどと思つたのですが、当時は手紙が恋の第一歩だったんですね。もちろん漢字の間違いとかはあります、編集者

書くのはものすごく速いですよ。手が勝手に動いていく時つて1時間で8枚、9枚。だんだん文字が流れようになつていくんですね。多分、パソコンではこの速さで書けないでしょう。もちろん漢字の間違いとかはありますが、編集者

手紙は万年筆で書きますよ。信じられないかもしませんが、私はよく筆まめなんです。メールは親しい友人との連絡だけで、有名な老舗文具店のはがきなどを買い置きしていく、すぐ

すごい負担がかかるんですね。でも山本淳子先生（京都市立大教授）に教えていたたぐうちになるほどと思つたのですが、当時は手紙が恋の第一歩だったんですね。もちろん漢字の間違いとかはあります、編集者

がどうぞいました

お問い合わせ

大学書道

『板書授業』が人気



福岡教育大学 (福岡県宗像市)

「空間の取り方次第で文字は大きく見えたり、小さく見えたりする」と教える坂井准教授

福岡第一師範学校を前身とする福岡教育大学は、九州地区の教員養成の拠点校。JR博多駅から鹿児島線で約40分。「教育大前」駅を下りると、バスを待つ学生の一群に出会った。一帯は大学の街といった趣だ。

全国に先駆け 専門科目設ける

その伝統校が平成19年、全

国に先駆けて、「板書技法と書の文化」という科目を始めた。

先生を目指す学生を対象にした選択科目で、定員は40人。希望者を募集したところ、200人を超える応募があり、大学側も、その反響に驚いた。人気科目となり、同22年には壁面の四

方に黒板を張り巡らせた専用教室が設けられた。



「ゆったり、太く」という基本を頭に入れて、かなを板書する学生

平がなは 字母を意識して

後期最初のかな実践授業。坂井准教授は黒板に「り」を書き出した。2画目の「ノ」を書き出す

いますか」と学生に挙手させた。
①に手を挙げる学生が多くつた。そこで、坂井准教授が「り」の字母「利」の崩し字を黒板に書く。崩し字では2画目の「ノ」が1画目より低くなる。もう一度、学生に挙手させると、ほとんどが②に手を挙げた。坂井准教授は「そうです。字母を意識してください」と教える。

次に「ま」を書いた。2本の

15回の授業では漢字、片かな書き、「かなは、ゆったり太く」と板書のコツを指導した。

現役の先生にも 人気の講習

授業を受けた三原屋瑞穂さん

同大学は現役の先生が受ける教員免許状更新講習の予備講習

科目に「板書技法と手書き文字文化」を設けたところ、定員40人に対し、800人の応募があつた。学生だけでなく、先生たちも板書を学びたがっている実

授業中の学習理解に、大きな影響を与えるといわれる黒板の文字。先生たちが、上手な字を書くことによって子どもたちの学習意欲も向上する。そんな、教育現場の声もあって、大学での「板書教育」が、注目されている。パイオニアとなつた福岡教育大学(福岡県宗像市)と、平成25年度から全国で初めて必修科目として採用する奈良教育大学(奈良市)を訪ねた。

横線の長さを①上が長い②下が長い③同じ長さの3種類。これ

大学では、最初の実践授業で書いた板書をカメラで撮影し、最後の授業で同じ文字を書かせて両方の写真を比較する。上達ぶりは一目瞭然だ

正解した。「ま」の字母である「末」を意識すれば、すぐ理解できる。学生の呑み込みは早かつた。

この後、同じ字でも空間の取り方次第で、大きく見えたり、小さく見えたりする例を黒板に書く、「かなは、ゆったり太く」という。

横線の長さを①上が長い②下が長い③同じ長さの3種類。これ

大学では、最初の実践授業で書いた板書をカメラで撮影し、最後の授業で同じ文字を書かせて両方の写真を比較する。上達ぶりは一目瞭然だ

「板書技法と手書き文字文化」

福岡教育大学板書教育プロジェクト編

授業の後、黒板に残された板書を見ると、どの程度の授業が行われたか、およそその推測がつくといわれる。それほど重要な「板書」だが、意外に板書をテーマにした書物は少ない。

そこで、福岡教育大学の美術教育講座、国語教育講座、数学教育講座、社会科教育講座の教員8人が、「教育界に敢えて一石を投じたい」と『板書技法と手書き文字文化』を著した。

文字の発明、仮名の成立、書体の変遷など基礎的な知識を紹介しながら、実際にきれいな字、読みやすい字をうまく書くための実技学習について展開。写真もふんだんに使い、分かりやすく解説している。

資料編では、「筆順指導の手引き」「平仮名、片仮名字源一覧表」も添え、文字の面白さ、書くことの深みを引き出した。発行・木耳社、B5判、120頁。定価1800円(税別)。



大学書道

教員を目指す学生

現代に伝わる日本最古の歴史書「古事記」編纂から1300年。記念事業で、にぎわう秋の古都は木々も、うつすらと色づき始めた。平成24年10月、書の名門として知られる奈良教育大学で、翌年度から実施する板書

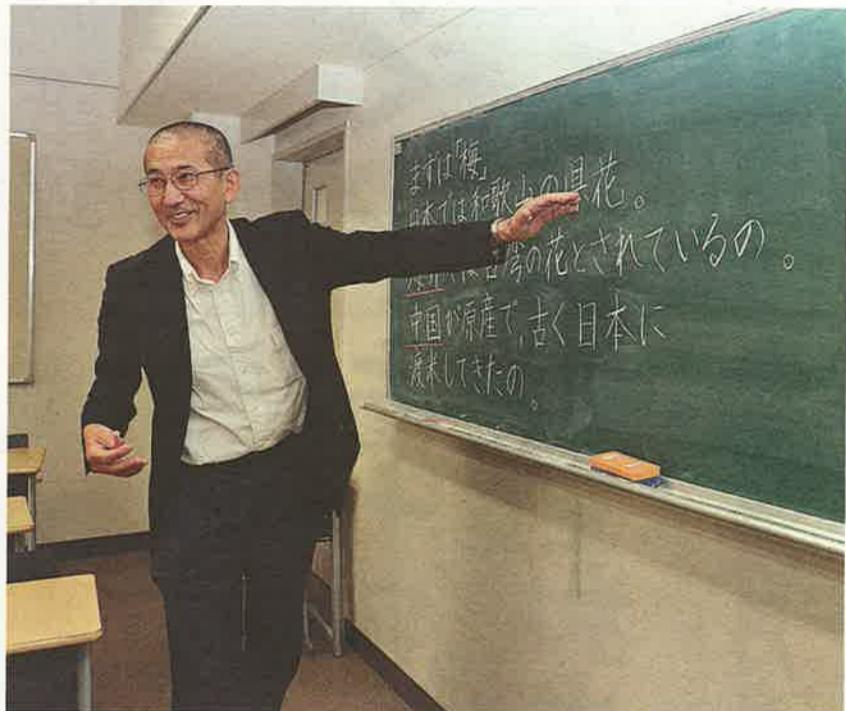
きれいな字や配置
“教師力”養う

学部再編に伴い、教員免許の取得を義務づけない「総合教育課程」（ゼロ免課程）の募集を24年度から停止して、教育大学の本来の役割である教員養成に

力を入れるのが狙いだ。
指導教員は福光佐今（幽石）
教授（漢字書法全般）、吉川美
恵子教授（仮名書法全般）、豊
田宗児准教授（漢字書法、古典
文字、篆刻）、谷川雅夫准教授
(書道史、書道理論、書道教育)
の4人。

2年生の必修科目とし、前期、

奈良教育大学（奈良市）



模擬授業で漢字や平がなの板書文字の書き方を指導する谷川准教授

この日の模擬授業は書道科の模擬授業が行われた。学生が受講し、福光教授と谷川准教授が教壇に立った。紙と、立て板の黒板では書く感覚が異なる。「島根」「ボタン」「秋の」など漢字と平がな、片かなが交じった文章を福光教授が選び、学生に書いてもらつた。文

字構成は計算されており、学生は「簡単なようで、うまく書けない」と頭を捻っていた。

この後、谷川准教授が赤いチヨークで「朱」を入れ、字のクセを指摘する。また、「書いている時、黒板の字が先生の体にかぶると、生徒は筆順が見えない。書く姿勢も大切」と実践的に教えた。

統いて、黒板から少し離れた位置に学生を立たせ、自分の書いた文字を見つめ直す。福光教授が「横書きの場合は、字の底をそろえず、字の中心をそろえる」「背の高い漢字と低い平がなが並ぶと凹凸が大きくなる」「画数の多い、少ない字の書き方、バランスを考える」などと、指導した。



小・中学校の教育現場では、数学（算数）、理科、英語などの授業で、数字や化学記号、アルファベットも必要となる。奈良教育大学は福岡教育大学と同様に、これらの板書例も教える。福光教授は「黒板の字が読みにくく、子供もノートを取りにくい。ノートの整理の仕方や学習意欲など、板書は学習理解度に大きな影響を与えます」と、教育の質の向上に意欲を燃やす。

◀ 黒板から少し離れた場所に立って、自分の書いた字を見つめる学生。福光教授がバランスなどをアドバイスする

受講した河本佳代さん（2年生）は「立てた板に書くのは、思っていたより、難しかった。それに、チョークの筆圧も大事と分かった」と話していた。

学習理解度にも
大きく影響

授業計画

25年度から始まる板書実践授業には前期、後期合わせて2年生255人が受講する。授業計画は次の通り。

添削を受け、技術を習得する。最初に板書した字を写真で記録し、上達後に同じ字を書いて比較する。

- ④字をうまく書く方法
- ・平がなを整えて書く
- ・漢字を整えて書く（偏と旁の高さ、幅の変化）
- ⑤DVD鑑賞
- ⑥活字社会における手書き文字の重要性
- ・チョークの扱い方
- ・黒板に自分の名前を書く（縦書き、横書き）
- ・短文の板書

- ①文字のそれぞれの書体（楷書、行書、草書、篆書、隸書、平がな、片かな）の発生と変遷
- ②板書の基礎力養成I
- ・漢字の基本点画の書き方
- ・数字の書き方
- ・アルファベットの書き方
- ・書写的漢字と書道の漢字
- ・教科書用字体
- ・小学校書写と中学校書写
- ・許容字体

第7回 全日本小学生・中学生書道紙上展

小学2年



小学4年



小学6年



中学3年



力強い筆致

いきいきと

日本書芸院と読売新聞社主催の「第7回全日本小学生・中学生書道紙上展」(平成24年)は全国から1万7002点の応募があり、各学年ごとに「ベスト100」作品が選ばれた。小学校6学年、中学校3学年で計983人が受賞し、受賞者には「ベスト100認定証」などが贈られた。



小学1年



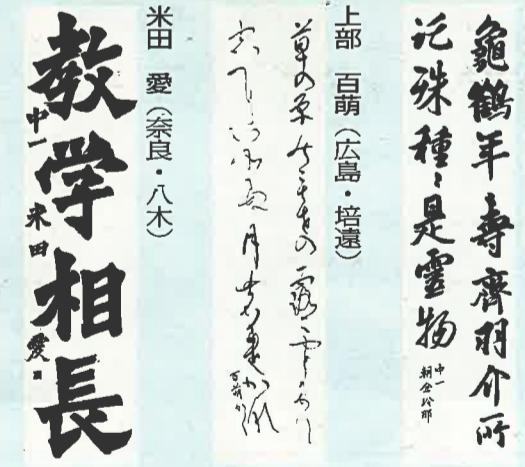
小学3年



小学5年



中学1年



岡和海 (熊本・氷川富原)

坪内 香菜子 (岡山・弥生)

井上 琴未 (和歌山・鳴瀬)

朝倉 瑞那 (京都・南葵)

げんき

大きな空

古典の美

珍鶴年 寺齊羽介所
元殊種是靈物

長光 心優 (長光心優)

中村 まりあ (鹿児島・鹿児島大学教育学部付属)

奥村 凜太 (奥村凜太)

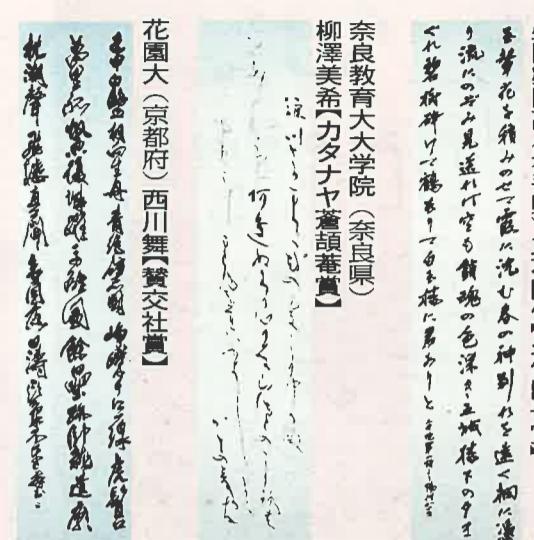
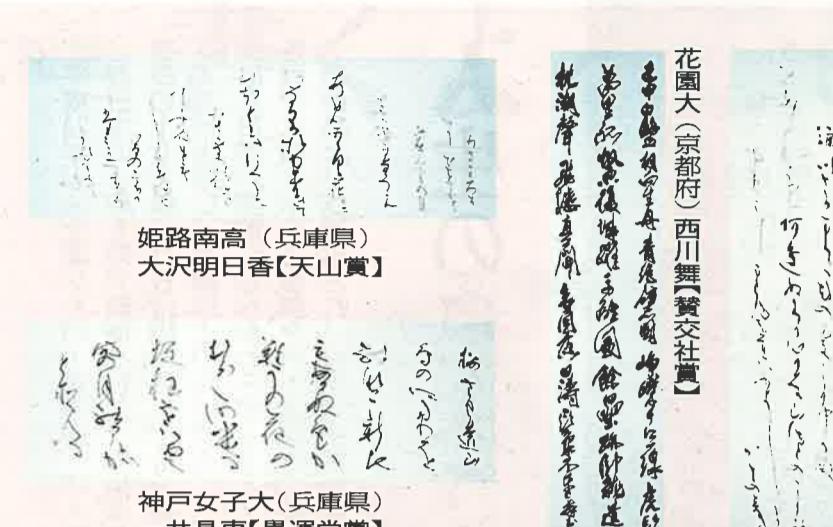
上部 百萌 (広島・培遠)

首の糸

木和田 千尋 (愛知・南山女子部)

木和田千尋

第17回 全日本高校・大学生書道展



琉球大（沖縄県）比嘉美翠【真竹賞】

盛岡大（岩手県）立花陽佳【久保田賞】

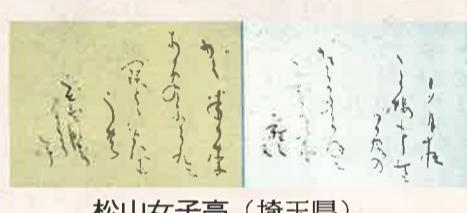
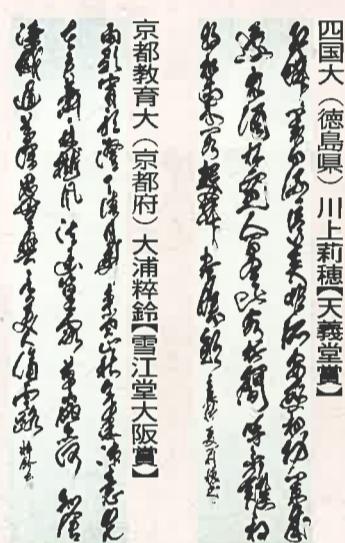
奈良教育大大学院（奈良県）
柳澤美希【力タナヤ蒼韻賞】

琉球大（沖縄県）比嘉美翠【真竹賞】

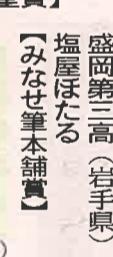
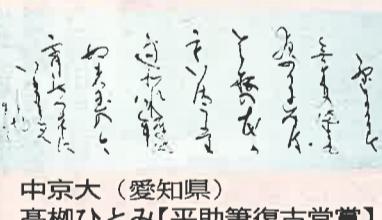
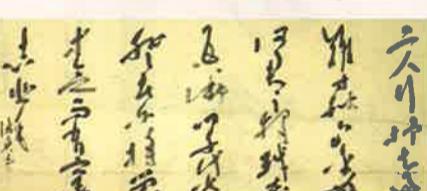
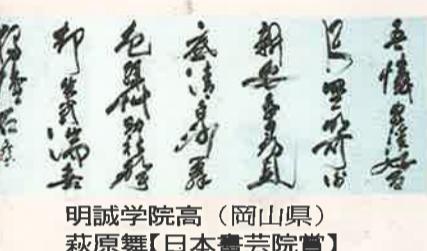
盛岡大（岩手県）立花陽佳【久保田賞】

「第17回全日本高校・大学生書道展」（平成24年）は漢字、かな、調和体（漢字、かな交じり）、篆刻の4部門から計1万1,056点の応募があった。最高賞の全日本高校・大学生書道展大賞に51点が選ばれたのをはじめ、同展賞400点、優秀賞671点などが決まりた。上位三賞受賞作品計1,122点が平成24年8月21日から26日まで大阪市立美術館地下展示会室（大阪市天王寺区）で展示された。最終日の26日には大阪国際交流センター（同）で授賞式が催された。

若さあふれる意欲作



（部分）
大東文化大（東京都）
小出育美【日本書芸院賞】



（部分）

【審査】

日 時 平成24年8月2日（木）
会 場 マイドームおおさか 1階
審査員 読売書法会常任総務・新井光風、本院副理事長・今村桂山、本院理事長・杭迫柏樹、本院副理事長・黒田賢一、本院副理事長・高木厚人、読売書法会常任総務・樽本樹邨、本院副理事長・真神巍堂、本院副理事長・横山煌平、本院副理事長・吉川蕉仙、読売新聞東京本社常務取締役事業局長・久保博、読売新聞大阪本社常務取締役事業本部長・窪田邦倫（書家は50音順）

【審査結果】

個人賞	全日本高校・大学生書道展大賞	51点
	全日本高校・大学生書道展賞	400点
優秀賞		671点
準優秀作品		1785点
優良作品		8149点

出品点数 1万1056点

○種別

- 第1種 5198点
(2×8、2.6×6、4×4)
- 第2種 5574点（全紙、聯落）
- 第3種 284点（篆刻）

団体賞 高等学校の部

最優秀校	埼玉県立松山女子高等学校（埼玉）初
優秀校2位	大分高等学校（大分）
同3位	岩手県立盛岡第二高等学校（岩手）
第4位	明誠学院高等学校（岡山）
第5位	鹿児島県立甲南高等学校（鹿児島）
第6位	岩手県立盛岡第四高等学校（岩手）
第7位	東福岡高等学校（福岡）
第8位	和歌山県立桐蔭高等学校（和歌山）
第9位	東京学館新潟高等学校（新潟）
第10位	鹿児島県立伊集院高等学校（鹿児島）

団体賞 大学の部

最優秀校	京都橘大学（京都）9回目
優秀校2位	大東文化大学（東京）
同3位	奈良教育大学（奈良）
第4位	帝京大学（東京）
第5位	四国大学（徳島）
第6位	中京大学（愛知）
第7位	立命館大学（京都）
第8位	京都教育大学（京都）
第9位	岐阜女子大学（岐阜）8位2校
第10位	甲南大学（兵庫）

第18回 全日本高校・大学生書道展（予告）

【作品受付】平成25年6月15日（土）締切
※同日消印有効
必要資料をご請求の上、作品とともににお送り下さい。
【会期】平成25年8月20日（火）～25日（日）
【会場】大阪市立美術館 地下展示会室（天王寺公園内）
■作品応募要項の詳細はホームページでご確認下さい。http://nihonshogein.or.jp（4月以降）

【主 催】公益社団法人 日本書芸院・
読売新聞社
【後 援】文部科学省（申請予定）
◇陳 列 大賞・展賞・優秀賞を陳列します。
(約1200点)
◇授賞式 展覧会最終日に授賞式・祝賀パーティーを開催します。

平成24年 全国シルバー書道展



心のこもった作品がすらりと並ぶ

人生の奥深さ表現

平成24年の「全国シルバー書道展」は大阪、京都、広島など西日本の2府6県で開催された。出品者の男性最高齢は三重展の101歳、女性は岡山展の101歳。大阪展には1004人が出品し、90歳以上の人には27人に上った。また、広島展は2日間の開催にもかかわらず、2952人が詰めかけた。各展では震災からの復興を祈る言葉や、孫と競ったファミリーの作品などが展示され、来場者を感動させた。

迷いの線ない 最高齢の作品

大阪展

第25回大阪展（実行委員長、江口大象・本院董事）は、大阪市中央区のOMM（大阪マーチヤンダイズ・マート）ビル2階展示場で8月7、8の両日に催され、1291人が来場した。シルバー展には982人の作品が展示され、孫とともに出品するファミリー展には22人の力作が並んだ。

孫と一緒に 健筆を競う

最高齢は99歳の佐藤さんと、金谷静子さん（いずれも堺市）。佐藤さんは大きな字で「寿」、金谷さんは憂うことがない心境を四文字で書いた。同展事務局の福山大輔さんは「二人とも迷った線がない。見事な作品に仕上がった」と話していた。

ほかにも、辻田幸雄さん（堺市）。佐藤さんは書いた「寿」で、玉西悦子さん（東大阪市）が5歳の歌輪ちゃん、1歳の太一君とともに出品。播磨清波さん（堺市）も8歳になる双子の孫、聰一郎君・秀一郎君と健筆を競った。また、高須賀山内さん（池田市）は、「あいかわらず、

市）の「絆」など被災者を励ます言葉や、伊澤洋子さん（四條畷市）の「いたずらに すぐす月日は多けれど 道をもとむるときぞ すくなき」、田原静華さん（吹田市）の「勝つてうれしく花いちもんめ 負けて口惜しい花いちもんめ」など人生の奥深さや素朴な心情をさりげなく表現した作品などが並んだ。

「般若心経」の写経もあり、笠原好子さん（大阪市住吉区）、横白房子さん（同鶴見区）は紺紙に金泥でお経を書き上げた。平成25年の大阪展は会場を大阪市立美術館に移し、2月13日から17日まで、5日間にわたって開催する。



真剣な表情で作品に見入る来場者

広報紙「書くよろこび」を 無料でお届けします

「書くよろこび」は、書くことのよろこびや楽しさを広く一般の方にアピールし、書写書道のより一層の振興と発展を目的とした無料の広報紙です（年1回発行、55万部）。

書道教室や部活動、展覧会場など、書や文字に関する様々な場面で配布、活用していただいている。

送料無料でお届けいたしますので、ご希望の部数と送付先を日本書芸院事務所へお申し付けください。お待ちしています。



最高齢(99歳)の佐藤さんが書いた「寿」

平成25年度
全国シルバー書道展（予告）

第25回広島展	1月5～6日	広島県民文化センター
第26回大阪展	2月13～17日	大阪市立美術館 地下展示会室
第26回三重展	2月21～24日	津リージョンプラザ
第26回京都展	3月1～3日	京都文化博物館
第26回滋賀展	4月26～28日	大津市歴史博物館
第25回奈良展	5月24～26日	奈良県文化会館
第17回和歌山展	9月4～9日	和歌山県民文化会館
第26回兵庫展	10月5～6日	兵庫県立美術館・原田の森
第26回岡山展	10月9～14日	天満屋岡山店・葦川会館

伝統と創意

公益社団法人 日本書芸院

■展覧会

<日本書芸院展>

日本書芸院社員相互の共励琢磨による「書」の本質的研究を通して、後進の育成に尽力しています。

●日本書芸院展(役員・役職者展) 会場: 大阪国際会議場(大阪市北区)

●日本書芸院展(社員展) 会場: 大阪市立美術館 地下展示会室(大阪市天王寺区)

●特別企画展・海外展

<その他の企画展>

小学生からシルバー世代まで、全世代を網羅する書道展を開催して、書の啓蒙と普及、我が国文化の継承・振興・発展のために活動しています。

●全日本小学生・中学生書道紙上展 読売新聞紙上

●全日本高校・大学生書道展

会場: 大阪市立美術館 地下展示会室(大阪市天王寺区)

●全国シルバー書道展 近畿2府4県および三重・岡山・広島県で開催

■沿革と概要

昭和21年(1946年) 11月創立

昭和22年(1947年) 5月、社団法人の認可を受ける

平成18年(2006年) 創立60周年を迎える。平成22年(2010年) 6月に公益法人制度改革により、内閣府から公益社団法人の認定を受ける

■現在、北海道から沖縄まで全国に約1万5千人の社員を擁する我が国屈指の書道団体であり、社員の中から、文化勲章受章者2名(故村上三島・故杉岡華邨)をはじめ文化功労者、日本藝術院会員、日本藝術院賞受賞者、日展や読売書法展など全国規模の大公募展の役員・審査員を務める著名な書道芸術家を多数輩出しています。

■毎年、公募を含めた書展や企画展、各種の講習会・講演会を開催しています。

■講習会

●記念講座

●教養講座

●「手書き文字ばんざい！」

(文字・活字文化の日記念イベント)

■出版

●作品集・図録

●会報

●研究誌・記念誌

●広報紙